

温泉揭示(内風呂)
(効果的で安全な温泉入浴のため次の揭示をよく読んで入浴して下さい。)

成分

1. 源泉名

2. 泉質

3. 泉温

4. 湧出量

5. 水素イオン濃度

6. 温泉の成分

多宝温泉だいろの湯 2号源泉

含硫黄-ナトリウム-塩化物温泉
(アルカリ性低張性低温泉)

25.8 度 (調査時における気温32度)

838 リットル/分 (掘削による動力揚湯)

pH8.9

温泉水1キログラム中に含有する成分、分量及び組成

(1)陽イオン成分

ミリグラム mg	ミリバール mv a l	ミリバール% mv a l %
水素イオン	H ⁺	---
リチウムイオン	Li ⁺	0.03
ナトリウムイオン	Na ⁺	491.4
カリウムイオン	K ⁺	3.3
アンモニウムイオン	NH ₄ ⁺	---
マグネシウムイオン	Mg ²⁺	0.2
カルシウムイオン	Ca ²⁺	80.7
ストロンチウムイオン	Str ²⁺	0.5
バリウムイオン	Ba ²⁺	---
アルミニウムイオン	Al ³⁺	0.01
マンガンイオン	Mn ²⁺	---
鉄(Ⅱ)イオン	Fe ²⁺	0.06
鉄(Ⅲ)イオン	Fe ³⁺	---
銅イオン	Cu ²⁺	---
亜鉛イオン	Zn ²⁺	---

陽イオン 計	576.2	25.52	100.00
--------	-------	-------	--------

(2)陰イオン成分

ミリグラム mg	ミリバール mv a l	ミリバール% mv a l %
フッ素イオン	F ⁻	0.3
塩素イオン	Cl ⁻	832.9
臭素イオン	Br ⁻	---
ヨウ素イオン	I ⁻	---
硝酸根イオン	NO ₃ ⁻	---
亜硝酸イオン	NO ₂ ⁻	---
硫酸根イオン	SO ₄ ²⁻	---
炭酸水素イオン	HSO ₃ ⁻	5.6
硫酸水素イオン	HSO ₄ ⁻	---
リン酸イオン	PO ₄ ³⁻	78.1
リチウムイオン	Li ⁺	---
メタ亜ヒ酸イオン	AsO ₂ ⁻	---
炭酸水素イオン	HCO ₃ ⁻	26.2
硫酸イオン	CO ₃ ²⁻	3.0
メタケイ酸イオン	HSiO ₃ ⁻	---
メタホウ酸イオン	BO ₂ ⁻	---

陰イオン 計	948.4	25.87	100.00
--------	-------	-------	--------

(3)非解離成分

成分	ミリグラム mg	ミリモル mm o l
メタケイ酸	H ₂ SiO ₃	26.1
メタホウ酸	HBO ₂	2.7
メタ亜ヒ酸	HA s O ₂	---
リン酸	H ₃ PO ₄	---
硫酸	H ₂ SO ₄	---
非解離成分 計	28.8	0.39

(4)溶存ガス成分

成分	ミリグラム mg	ミリモル mm o l
遊離二酸化炭素 (遊離炭酸)	CO ₂	---
遊離硫化水素	H ₂ S	0.08
溶存ガス成分 計	0.08	0.002

溶存物質 (ガス性のものを除く)

1553 mg / kg

成分総計 1553 mg / kg

(5)その他の微量成分

総水銀	H g	不検出 (0 . 0 0 0 5 m g / k g 未満)
鉛	P b	不検出 (0 . 0 1 m g / k g 未満)
カドミウム	C d	不検出 (0 . 0 0 5 m g / k g 未満)
総クロム	C r	不検出 (0 . 0 2 m g / k g 未満)
総ヒ素	A s	不検出 (0 . 0 0 1 m g / k g 未満)

7. 温泉の分析年月日

平成18年 8月25日

8. 分析者

社団法人 長野県薬剤師会

9. 分析機関

登録番号 長野県第2号

禁忌症・適応症・入浴の方法及び注意
1. 禁忌症 (1) 浴用の禁忌症 ・ 一般的禁忌症 急性疾患 (特に熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、 重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、 その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中 (とくに初期と末期) ・ 泉質別禁忌症 皮膚、粘膜の過敏な人特に光線過敏症の人 2. 適応症 (1) 浴用の適応症 ・ 一般的適応症 神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、 うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、 疲労回復、健康増進 ・ 泉質別適応症 きりきず、やけど、慢性皮膚病、虚弱児童、慢性婦人病、糖尿病 3. 入浴方法及び注意 (1) 浴用上の注意事項 ア. 温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を1 日当たり1 回程度と すること。その後は1 日当たり2 回ないし3 回までとすること。 イ. 温泉療養のための必要期間は、おおむね2 ないし3 週間を適当とすること。 ウ. 温泉療養開始後おおむね3 日ないし1 週間前後に湯あたり (湯ざわり又は浴 場反応) が現れることがある。「湯あたり」の間は、入浴回数を減じ又は入 浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。 エ. 以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。 ・ 入浴時間は、入浴温度により異なるが、初めは3 分ないし10 分程度とし、 慣れるにしたがって延長してもよい。 ・ 入浴中は、運動浴の場合は別として一般には安静を守る。 ・ 入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない (湯たれを起こ しやすいは逆に浴後直水で身体を洗うか温泉成分を拭き取るのがよい)。 ・ 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。 ・ 次の疾患については、原則として高温浴 (42℃以上) を禁忌とする。 高度の動脈硬化症、高血圧症、心臓病 ・ 熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意をする。 ・ 食事の直前・直後の入浴は避けることが望ましい。 ・ 飲酒しての入浴は特に注意する。 4. 適応症、禁忌症決定年月日 平成1 8 年 8 月2 5 日 5. 決定者 新 潟 市
温泉利用に関する情報
1. 入浴に適した温度に保つため熱交換器で加温しますが加水はしておりません。 2. 浴槽水の温度を昇温し、浴槽内の温度を均一に保つため循環装置を使用して います。 3. 入浴剤は使用しておりません。 4. 衛生管理のため塩素系薬剤を使用しております。 5. 温泉水は毎日1 回入換を行っています。 6. 浴槽は毎日入換時に消毒を行っています。